



職員、友の会会員、事業所や地域を守りながら

2022年を力強く 歩んでいきましょう

社会医療法人 同仁会

理事長 田端 志郎

新年あけましておめでとございます。コロナ禍が始まって、もうすぐ2年。同仁会は、全役職員と健康友の会みみはらが心をひとつに奮闘し続けた結果、院内フラusterを発生させず、多くの方に必要な医療と介護を提供し、「いのちの相談所」機能を発揮してきました。奮闘されたみなさんに、心から感謝申し上げます。コロナ対応は続きますが、これからも職員、友の会会員、事業所や地域を守りながら、2022年を力強く歩んでまいりたいと思います。

同仁会ステートメントは

支持を得る礎

総選挙の結果を経て、理事長として同仁会のあり方について思いをはせています。私たちは、無差別・平等の医療と福祉を掲げ、室料差額の徴収をせず、無料低額診療を行い、事業所と友の会がともに、「いのちを守る政治」を求めて運動に取り組んできました。ですが、これだけでは不十分なのだと感じています。「医療と介護の複合事業体」として



の強みを生かし、もっと地域の各種団体と協力し、社会問題の解決やまちづくりに力を発揮する中で、圧倒的に多くの方の支持を得ていく事業活動を展開していかなければ、私たちの理念は実現しないのではないかと思います。「同仁会ステートメント(①ジェンダー平等、②性の多様性、③ハラスメント、④平和、地球環境、人権)」は、その礎になると考えています。

10年後の同仁会を作る

事業に邁進

長年の悲願であった債務超過解消が、計画より1年前倒しで達成確実となりました。これを受けて、2030年までの中期事業計画策定作業に入ります。この実践には、同仁会前倒産からの再建運動に匹敵する団結が必要です。全役職員と友の会の叡智を合わせ、10年後の同仁会を作る事業に大いに楽しみながら邁進していきましょう。

必要な医療と介護を

しっかり届けよう

政府は、医療機関への締め付けを強めています。昨年10月にコロナ特例加算が廃止され、1月からコロナ空床補償の減額、4月からこれまで以上に病院に受診しにくくなる新たな診療報酬制度が始まる予定です。国立がん研究センターは、「2020年の1年間でがんの診断や治療を受けた方が、約5%も減少した」と発表しました。必要な医療と介護をしっかりと届けるために、全役職員と友の会で心を合わせて奮闘していきましょう。

